



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2012-2013 年度 No. 2 1

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2012-2013 年度 会長 河合耕一、幹事 上田昭二

2012-2013 年度 RI テーマ



「奉仕を通じて 平和を」

(田中作次会長)

例 会 記 録・福野街路樹清掃写真

第 1 6 4 7 回例会

平成 2 4 年 1 1 月 2 1 日(水) 井波文化センター

1. 点 鐘 会長
2. ソング：四つのテスト
3. ビジター：忠永明君(小矢部中 RC)



4. 会長の時間：過日の街路樹の落ち葉掃除参加者には感謝したい。あいにくの雨天だったが2日間に渡って 計 1 3 0 人の参加があった。体を動かさないといけない程寒かったので効率よく素早く済んだ。地区の自治振興会長さんも喜んでおられたと聞いている。ただ、始まりと終わりが曖昧であったことに反省がある。参加者は、時間前から持参のマイ箒やマイ熊手で作業を進めていた。RC会員はヘリオス前の銀杏の落ち葉の清掃に余念が無く、アオリを付けた2トン車は落ち葉で一杯になった。2日目は自動車で会場に向かっている途中に上田さんより「5～6人集まっているがやるのかやらないのか」とケイタイがあつて急いで会場に向かった。1日目よりも大きな雨。ブローで吹き飛ばしながら一か所に集める

ことができて効率的であった。この企画は来年もやりたい。秋田県能代市の福岡さんという若い庭師も我々と同様なことを3年前から実施され、私のHPを見て共感され情報交換をしている。これには中学生が参加し、新聞に大きく掲載されたようだ。弁解になるが、この計画は選挙などで準備不足であったが、皆さんのアドバイスのお蔭で首尾よく行った。

RC会員の長谷川吉美さんのお母さんのお葬式に参列してきた。小西会員は所用で退席されたが、2月24日のIMの計画で中尾ガバナーの講演講師を予定していたが都合が悪くなったという。中尾さんには、点鐘が懇親会だけでも出席してもらえないかと交渉するつもり。11月30日にIM実行委員会では対応策を話したい。(演台花瓶にはホトトギス、クロモジ、セイオウボツバキが活けてあった)。

5. 幹事報告：①大手町RCより「地区大会 礼状」受理した。②12月のロータリーレート、1ドル=80円 ③他クラブ例会変更は事務局に確認。
6. 委員会報告：①出席委員会：本日20名中14名出席 (70.00%)
7. ニコニコBOX(SAA：本日5名6000円)

河合会長：忠永さん、ようこそ。次期役員、理事を決める時期となりました。新会員の勧誘お願いします。

高瀬会員：1週間前に腰を痛めました。年とるとなかな

か治りません。皆さんも体に気をつけましょう。

山本会員：先週末、フッ素の全国研修会で上京しました。時間があって、東京スカイツリーに登り、上野でメトロポリタン美術館展を観てきました。来週は、浄教寺ツアーで京都東本願寺の報恩講に参拝します。例会休みます。

三角会員：古美術鑑賞会も無事終了しました。有難うございました。

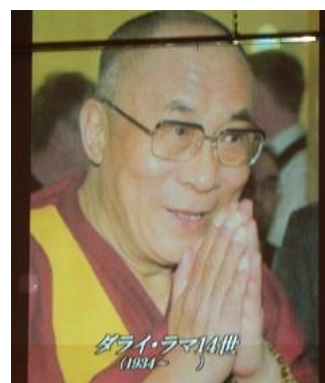
中島会員：朝夕、めっきり寒くなり、昨日あたりから風邪を引いたようです。今日は暖かくして早めに休みたいと思います。



卓話「チベット・祈りの世界」 高瀬顕正会員

高瀬会員：(映像提供を中心に。以下は言葉記録のみ) ヒマラヤ山脈は平均海拔4000mで広大な高原地帯。空中酸素は平地の70%。沸騰温度は80度。300万人の住民はそんな厳しい環境で暮らしている。彼らは仏教を信じ、心豊かに生きている。その土地の名はチベット。ラサはかつてのチベットの首都。標高は富士山より高い。そこに世界遺産の**ポタラ宮**。これはチベットの政治と宗

教の中心。部屋の数は一〇〇〇室、高さは一七m、一三階建。七世紀、チベット統一の時に建立され、その後増築され現在の形になった。この広大な建物(ポタラ宮)の主はダライラマ。歴代ダライラマの居室や執務室がある。屋上には歴代ダライラマのお墓があり、仏典や胸像がある。最初の国王はソンツェンカンポ。国王時代は九代続いた。その後、ダライラマがポタラ宮の主になった。ダライラマ一世は一三九一年に生まれ、一四七二年に死亡。二世は一世の子ではない。歴代ダライラマは生涯独身。一世の死後、国がチベットの子ども全ての中から「生まれ変わり」を探す。「生まれ変わり」と認定された少年は幼少の時から後継者として教育される。これはチベット独特の活仏制度。以後、一三代続き、改築を繰り返しながら現在のポタラ宮となった。一三世は一九三三年に亡くなった。今は一四世。



ダライラマ14世

五〇年前、中国はチベットに攻め入り、一九五二年チベットは中国領土となった。現在はチベット自治区。中国は共産党なので宗教活動は弾圧され、一四世は止むを得ずインドに亡命。一三〇〇年間チベットはチベット国旗。今のポタラ宮の天頂には中国の国旗が翻る。ポタラ宮に入り、階段をのぼった。高地なのでツライ。

参詣の住民は前掛けのようなものを付けている。大きな目玉のあるところがチベット仏教の総本山、**大昭寺**。チベット住民は、一生に1回はこの総本山にお参りに来る。信者はそこでは**五体投地**を行って祈りを捧げる。

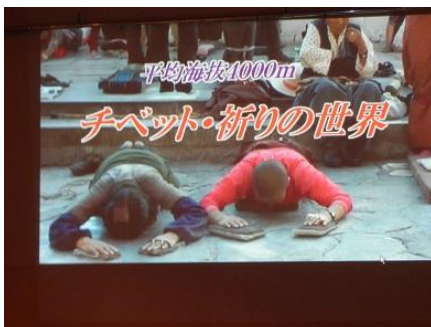


屋上からはバラックのような土産物店が並んでいるのが見える。**八角街**というチベット最大の歩行者天国。大昭寺の周りを時計周りに一方通行で回る。一種の巡礼の意味もある。これをチベット仏教では**コッラ**という。仏像で一番多いのは**弥勒菩薩**。蠟燭の燃料はバター。信者は黄色いビニール袋に入れたバターを持参し、蠟燭の燃料の箇所にはバターをくべて行く。坊さんは、臘脂色の僧衣をまとい、肉体を鍛えているから体格はよい。穏やかで剋軽で厳しさは感じない。チベットの女性は辮髪姿。階段の上に弥勒菩薩があり、お参りに上る。



葬式について紹介する。1つは**塔葬**。国王やダライラマはこれに該当する。歴代のダライラマの墓がポタラ宮の屋上に林立し、その下にミイラとして保存される。2つ目は**火葬**。貴族と高僧がこれに該当し、遺骨を残すという形式。3つ目は**鳥葬**。これは一般の人が対象で死体を鳥に食べさせるという方式。死体を聖地に運び、僧侶の祈祷後、死体を切り刻んで鳥が食べやすいようにし線香を焚いて鳥を呼ぶ。そこへ体長約1mのハゲワシが来て死体を食べる。鳥葬の理由は、木が生えてないので薪が無いから。この鳥葬の衝撃的な場面を写真に収めた日本人カメラマンが居た。その名は**野町和嘉**。彼の本「祈りの回廊」の中でこう述べる。「倫理思想に裏打ちされた生命観をチベット独自の方法で実践しているのがこの鳥葬。臨終の際、僧侶による祈祷で魂を抜きだせば遺体は単なる抜け殻に過ぎない。それを切り刻みハゲワシに餌として与えることで人間の体もチベット高原の生態系の一部として例外なく循環して行く。そもそも火葬にしようにも肝心の薪は無い。土葬にしても半永久凍土では遺体が分解されるのは容易では

無い。部外者、わけても外国人が近づくことを厳禁された鳥葬に、私が偶然出会ったのは東チベットの小さな町を出発したある朝の出来事。道路の脇の草原には東チベット独特の聖域から一条の煙が上がっていた。ガイドに尋ねると鳥葬のために鳥を呼んでいるところとだという。こんなところでまさか鳥葬とは。私は言葉を失ったまま、煙の行方に目を遣った。夥しい数のタルチョ（旗のようなもの）が張られた聖域で祈る老女。聖域の外には2頭の馬を連れた3人の男たちが休んでいた。死体を運んできたのであろう。死者は落馬して肝臓破裂した11歳の女の子。ガイドから話を聞いている内にハゲワシが小屋の後ろ斜面に飛来してきた。その数30羽ほど。ついに解体が始まった。私はカメラを手に50mほど近づき、解体が始まったタルチョの後まで行った。私は気にしていたが、男たちは見逃してくれた。エプロンを付けた僧侶が1人、小屋の前の石に死体を載せてこれを切り刻み始めた。立ったりしゃがんだりしながら鉋を振り、小刀を使って慣れた手付きで解体を始めた。立ちあがる度にエプロンが血に染まっていくのが遠目にも分かる。僧侶はしばしば手を休め、時に2人で笑いを交えながら世間話に興じている。切断した腕や胴体を持ち上げ、切り分ける。そして談笑が始まる。やがて20分ほど経ってから僧侶は大きな肉の塊を両手にぶら下げ、裏手に待機している鳥たちに投げ与える。それを合図に待ち構えていた鳥たちは食い尽くすと、薄日差す曇り空に飛び立って行った。」4つ目に**水葬**。死体を切り刻んで魚に与える。5番目には**土葬**。これは伝染病死者。



車はマイクロバス。無数階のような階段は死者が天国へ行ける様に願うお呪いのもの。**コッラ**ではお経を書いた紙を時計周りに回すとお経を読んだことと同じご利益がある。生まれては死に、死んでは生まれるという車輪が回るように果てしなく続く迷いの世界。そこから抜け出すことを解脱と言いチベット仏教の最高の境地。海拔4000m。

世界の屋根と言われる辺境の地に暮らすチベット人。厳しい自然条件の中で仏教を深く信じ、**五体投地**という激しい礼拝の繰り返しながら力強く賜った命を生きて行く。（終わりはコッラ、五体投地、天国への階段、バター蠟燭などの動画提供5分）

（報告） 福野地区街路樹清掃：11月17－18日

福野庁舎から、ヘリオス周辺の落ち葉拾いの写真

